

現在約200頭の乳牛を飼育しています。1日平均親牛1頭から約100kgのふん尿が発生し、堆肥化していますが、冬の間、2mの雪が積もり畑に散布することができません。堆肥を畑に散布できる時期も、10月末にデントコーンの収穫が終わり、根雪になる11月末までの1カ月間のうち5～6日しかない厳しい状況です。

このバイオガスプラント整備により、ふん尿を液肥化することで、作業効率も良くなり、土壌にも良いと思っていますし、酪農家だけでなく、畑作農家や家庭菜園にも使用できると思い、この事業に期待しています。



酪農家
奥澤 貴広さん



サ・ム・ラ・イ・エナジー（株）
須藤 淳一さん

町で消費している電気・ガスのエネルギーを購入しないで、自分たちで作りあげることに賛成です。また、現在、建設している太陽光発電は、町民の皆さんの力をお借りしないと運用できませんので、ご協力をお願いします。



北海道大学大学院
農学研究院教授
岩淵 和則さん

都会と違い田舎には資源が豊富にあります。小さい町だから何もできないではなく、小さい町だからこそできる要素がたくさんあります。豊浦町は、その可能性を秘めています。



村井 洋一町長

再生可能エネルギーに取り組むことにより、地元資源を循環させたい。豊浦町の取り組みに興味を持ってもらうことで豊浦町を知ってもらうことにつながり、そこからまた、産業の発展、雇用の創出、最終的には人口減少問題の解決にもつながることと思っています。

◆バイオガスプラント、太陽光発電は、平成31年4月から運用開始を予定しています。

